

2018年10月23日
全国保健所長会総会
会員協議(討論会)

西日本豪雨被害における DHEAT活動報告

～大阪市の立場から～

大阪市保健所長
吉田英樹

大阪市DHEAT

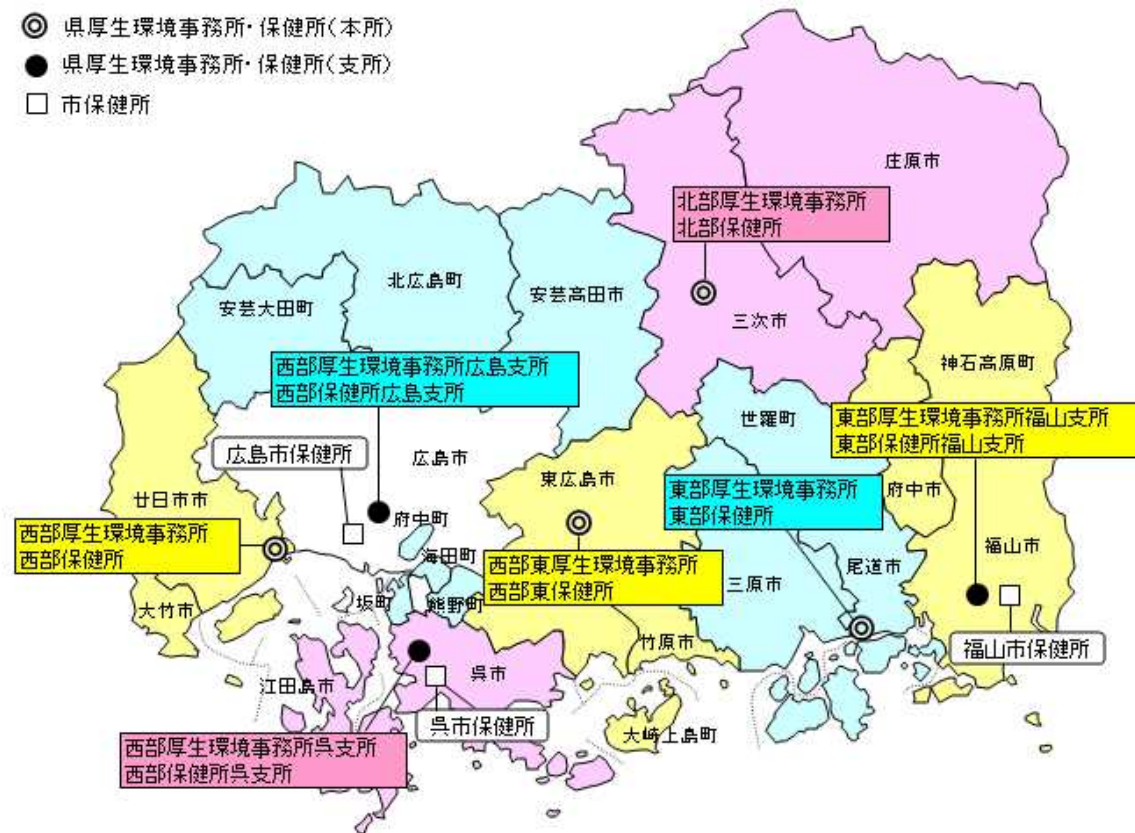
- 派遣先：広島県三原市
- 第1班： 8月3日(金)～8日(水)
- 第2班： 8月8日(水)～12日(日)
- メンバー構成 5名
 - ◆ 医師、保健師、薬剤師 または 獣医師、事務、業務調整員
- 公用車で現地入り

派遣先：広島県三原市



広島県 保健所(本所・支所)

- ◎ 県厚生環境事務所・保健所(本所)
- 県厚生環境事務所・保健所(支所)
- 市保健所



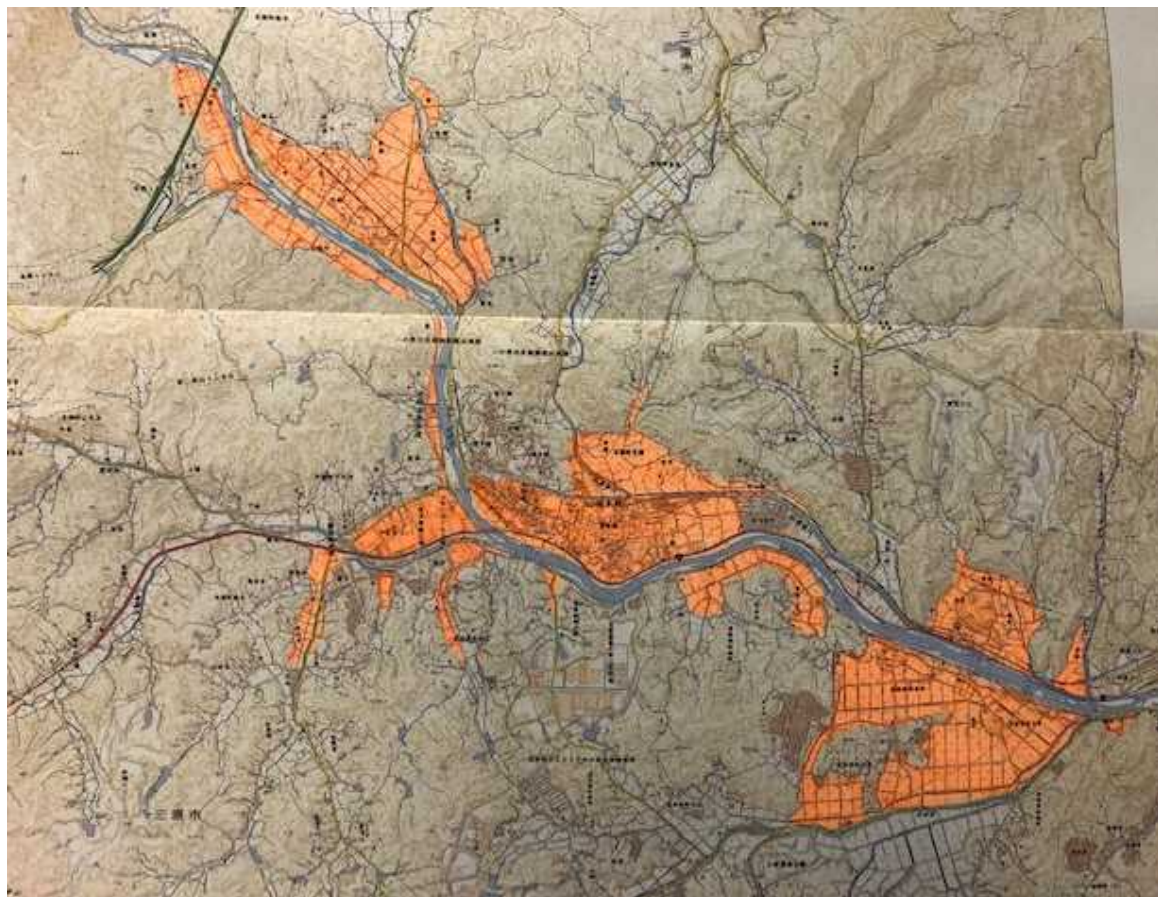
三原市の被害状況

- 人 死者 8名、負傷者 10名
 - ◆ 避難者 最大 2,031名(7月7日)⇒ 65名(8月7日)
- 建物
 - ◆ 浸水害 2,575棟(うち住家 1,424棟)
 - ◆ 土砂災害 399棟(うち住家 194棟)
- 道路 1,114箇所
- 河川
 - ◆ 市管理河川 442箇所
 - ◆ 県管理河川 29箇所(10河川)
- 施設 34
 - ◆ 小学校、幼稚園、保育所、清掃工場、公民館、斎場、消防団、青年の家、福祉センター、コミュニティセンター、公園等
- 農林水産 被害面積 559 ha

- ▶ 人口: 94,730
- ▶ 世帯: 43,708
- ▶ 面積: 472 km²

- ▶ 総栽培面積 2,327 ha

実際の浸水被害地域



ハザードマップ 浸水害



DHEATへの依頼事項

- 被災者の健康管理方針への総合的助言・ロードマップの作成
 - ◆ 要援護者等支援のロードマップの作成
 - ◆ 保健師等支援チーム(1都3県)の統括、日々の訪問活動の計画
 - ◆ 訪問記録のデータ化・とりまとめ⇒分析⇒中間報告書作成⇒今後の方針の提案
 - ◆ 最終報告のための基礎データの整理
 - ◆ 今後の作業量を算出して「追加派遣」または「派遣取りやめ」の提案
 - ◆ 三原市が通常の保健活動に戻れるよう道筋作り
- 三原市保健医療災害対策関係者会議(通称TACO会議)の運営支援
- 本郷地区の医療体制の確保支援
- スタッフとしての活動支援

三原市保健医療災害対策関係者会議

Mihara City Health and Medical

Technical Associate Conference for Overcoming the disaster



保健師等支援チームの活動

- 東京都・新潟県・宮崎県・茨城県の4チーム
- DHEATのPHNが統括
- 活動拠点：本郷保健福祉センター
- 7/13-7/23: 要援護者の家庭訪問
- 7/24-8/5: 浸水地域の全戸訪問(ローラー作戦)
- 被害状況・健康問題の聞き取りと要援護者のリストアップ
- 要支援者のフォローアップ(みなし仮設住宅入居者を含む)
- 避難所の巡回
- 活動記録は毎日三原市に提出

DHEAT および 保健師等支援チームの拠点



主な支援内容

- 三原市保健活動災害復興ロードマップの提案と作成支援
- 保健師等支援チーム(1都3県)の統括・調整業務
 - ◆ 活動拠点を変更(本郷保健福祉センター⇒三原市総合保健福祉センター)
 - ◆ 4チーム⇒1チームに縮小(DHEAT:大阪市第2班で終了)を決定
- 三原市および広島県東部保健所との連絡調整
- 各戸訪問記録の集約・入力・まとめや要支援者のフォローアップ
- 三原市災害対策本部会議に出席
- 三原市保健医療災害対策関係者会議の運営支援および事務局業務
- 報告書の作成

災害時健康危機管理支援チーム活動要領

2018年3月20日

➤ DHEATの任務

DHEATは、**被災都道府県等が行う**超急性期から慢性期までの医療対策及び避難所等における保健衛生対策、生活環境衛生対策等の災害時保健医療対策に係る情報収集、分析評価、連絡調整等の指揮調整機能等が円滑に実施されるよう、被災都道府県の**保健医療調整本部及び被災都道府県等の保健所を応援する。**

➤ DHEATの構成員による応援の在り方

DHEATは、被災都道府県の**保健医療調整本部及び被災都道府県等の保健所の指揮下に入る**とともに、DHEATの構成員が**各々配置され、被災都道府県等の職員とともに活動すること**を基本とする。原則として、移動時や宿泊時等を除き、独自の班単位では活動しない。

➤ DHEATの構成員が応援する被災都道府県等による指揮調整業務

DHEATの構成員は、被災都道府県等による以下の指揮調整業務が円滑に実施されるよう、被災都道府県の保健医療調整本部及び被災都道府県等の保健所を応援するが、**被災都道府県等の体制や災害の状況等に応じて柔軟な活動を行う。**

課題と提言

課題： DHEATの構成員が各々配置されて保健所の職員とともに活動する形態ではなく、独自の班単位で活動した。

- 活動範囲が保健師等支援チームの業務に限定された。
- 薬剤師・獣医師の専門性を活かした活動ができなかった。
- 県・市及びDHEAT・保健師等支援チームの拠点が3か所にわかれたため、タイムリーな情報共有や連携に苦慮する場面が少なからずあった。
- 県・市・保健師等支援チームの認識や思惑のずれの調整が困難であった。
- 重要な方針決定の協議の際に、県・市・DHEATの3者が集まる必要があった。

提言： DHEATの活動拠点は保健所に置き、各々が保健所の職員とともに活動する形態が望ましい。